



千葉大学ユニオンニュース 第 89 号 2014 年 9 月 30 日

編集・発行：千葉大学ユニオン 事務局：西千葉キャンパス旧薬学部 1 号館 316 メール：cuu@e-mail.jp

電話・FAX：043-290-2234 HP：http://www.age.cc/~cuu/（過去のニュースもご覧になれます）

☆職場でお困りのこと、お気づきのこと、ご質問・ご意見をお寄せください。

「団体協議」が開催されました

ユニオンが2014年2月21日より大学側に申し入れを行ってきた
「団体協議」が行われました。

標記の通り、ユニオンが「団体協議」が、去る2014年9月8日に、ようやく開催されました。

1. センター試験入試業務に対する妥当な手当の支給に対して

申し入れ内容は、現行の振替による休日の取得に加えて、入試手当を特殊勤務手当として位置付け給与規定の中に盛り込んで適切に支給すること、および、大学入試センターから支給されている経費のうち人件費が大幅に物件費に流用されているので、その詳細を開示してほしいというものでした。

大学側からは、まず、平成 26 年度分の人件費・物件費のおおまかな部局毎の支出内容の開示が行われました（表 1、表 2）。

ユニオン側としては、平成 25 年までの支出について開示を希望していたのですが、今回、その開示は行われませんでした。平成 25 年度までは、改善がなされていなかったのではないかと推測されます。

平成 26 年度分については、改善の跡が見られますが、人件費に関しては部局毎の偏りが激しく、医学系に最も厚く支給され、次いで他の理系学部が多く、いわゆる文系学部に対してはあまり支給されていないことが確認できます。これは、休日振替が困難な監督者にのみに手当が支給された結果であると思われます。なお、特殊勤務手当としての入試手当の創設については、今後検討していくということでした。このことは、前回のユニオンの申し入れについての検討が行われていないということであり、ユニオンとしては引き続き協議の課題として行きます。

2. 技術職員問題に関して

これまで、千葉大学の技術職員は昇格年齢が遅いことが指摘されてきました。ユニオンでは、それゆえに、事務職員と技術職員の年齢別職階人数表の作成・開示を要求していました。

しかしながら、今回は、残念なことに、目的とした資料は作成されませんでした。改めて資料を作成するよう申し入れをしました。大学側からは、資料作成が可能かどうかを検討してみるという回答があ

りました。資料開示の仕方には疑問を抱かざるを得ませんが、問題点は認識されており、順次改善は行われているようであり、改善された後の部分について開示したいという意図は感じられました。

3. 職員宿舍問題について

ユニオン側からは、予てより、八津宿舍の利用方法や廃止される宿舍の跡地利用計画について質問してありました。

跡地利用計画については新しい話があり、亥鼻・松戸に隣接する跡地については大学施設本体として一体利用を検討し、その他の跡地については、一部を売却し、一部は留学生・学生用宿舍として利用することを検討しているという回答がありました。

八津宿舍の入居基準については、規定を作成・公表済であるという回答がありました。

まだ、実際の運用は始まっていないので、今後の課題であろうと思われます。

なお、UR 賃貸住宅への入居斡旋は順調に行われているという回答も得られました。

4. 松戸地区の保育施設について

ユニオン側からは、グループ型小規模保育施設を設けることを検討するように申し入れてありましたが、今回は、松戸市からの補助金制度が廃止されたので、それが困難になったとの回答がありました。

また、近隣の国家公務員住宅との協同利用施設も、千葉大学主導で行うのは考えにくいという趣旨の回答でした。

今後は、千葉大学単独での設置が可能かどうか、利用希望者の人数調査を行い、検討を行いたいということでした。

ただ、利用希望者が数名に満たない場合には、財政的に難しいという話もあり、今後の検討課題となっています。

5. その他

大学説明会・後援会などで休日に勤務した際に、平日の業務の都合で休日振替ができない場合には、休日勤務手当を支給するよう申し入れました。

表1. 平成26年度大学入試センター試験実施経費 (単位:円)

部局	人件費	物件費	合計
文学部	359,000	0	359,000
教育学部	419,000	435,000	854,000
法経学部(人社研、 専門法務等を含む)	772,000	587,000	1,359,000
理学部	1,210,000	275,000	1,485,000
医学部	3,732,000	716,000	4,448,000
薬学部	523,000	288,000	811,000
看護学部	293,000	242,000	535,000
工学部(融合・医工学を含む)	2,132,000	409,000	2,541,000
園芸学部	737,000	482,000	1,219,000
その他センター等	100,000	0	100,000
総合安全衛生管理機構	102,000	298,000	400,000
事務局	1,768,000	4,086,664	5,854,664
	12,147,000	7,818,664	19,965,664

表2. 平成26年度大学入試センター試験に係る物件費使途内訳 (単位:円)

部局名	配分額	支出 済額	差引	支出内訳	
				事項	金額
文学部・ 法経学部	587,000	505,300	81,700	消耗品	205,140
				弁当・飲み物代	300,160
教育学部	435,000	428,350	6,650	消耗品	83,531
				弁当・飲み物代	223,649
				清掃費	107,100
				救護費	14,070
理学部	275,000	275,000	0	消耗品	74,066
				弁当・飲み物代	198,099
				救護費	2,835
医学部	716,000	566,780	149,220	消耗品	117,930
				弁当・飲み物代	221,000
				複写機レンタル	207,900
				清掃費	19,950
薬学部	288,000	289,227	-1,227	消耗品	36,532
				弁当・飲み物代	146,750
				複写機レンタル	105,945
看護学部	242,000	220,770	21,230	消耗品	100,170
				弁当・飲み物代	120,600
工学部	409,000	466,562	-57,562	消耗品	244,592
				弁当・飲み物代	216,300
				救護費	5,670
園芸学部	482,000	538,706	-56,706	弁当・飲み物代	193,193
				試験補助謝金	256,000
				施設使用料	89,513
総合安全衛生 管理機構	298,000	297,984	16	医薬品	63,984
				医療用品	234,000
事務局	4,086, 664	4,575, 207	-488,543	消耗品	2,310,
					424
				弁当・飲み物代	191,749
				輸送費	1,269,
					457
				借上代	80,946
				警備費	562,800
				交通費	75,600
				光熱費	21,831
補助者謝金	62,400				
	7,818, 664	8,163, 886	-345,222		8,163, 886

大学側からの回答は、財政的に難しいため、できるだけ休日振替を願うとのことでしたが、しかし、

加入申込書

電話・ファックス : 043-290-2234

千葉大学ユニオン委員長 佐藤隆英様

千葉大学ユニオン規約を承認し、千葉大学ユニオンに加入いたします。 2014年 月 日

お名前:

ご所属:

休日出勤の休日振替が現実にできなかった場合に、休日勤務手当を支給しないと労働基準法に違反することになります。

ユニオンとしては、大学側に休日振替ができない場合の休日勤務手当の申請を一層しやすい環境づくりを今後も働きかけていきます。

年俸制説明会が開催されました

9月8日16:30より、過半数代表者出席の下で、年俸制説明会が開催されました。

ユニオンからも2名が出席し、いくつかの確認と申し入れを行いました。

年俸制については、すでに各部局に対する説明会も開催され、導入に向けた動きが進められてきましたが、実施に当たっての問題点が必ずしも十分に検討されていないように思われます。そこで、今回、ユニオンとしては、まず概ね以下のようなことについて確認と申し入れを行いました。

○年俸制の選択は、個人の自由意志に基づいた同意を必要とし、強制はしないこと。

○年俸制の選択(移行)を、採用(昇任)の際の条件にしないこと。

○年俸制教職員の割合等に関して、部局にノルマを課さないこと。

○年俸制の運用に関して、十分な情報提供をすること。他

加えて、ユニオンとしては、引き続き年俸制の実施・運用に伴い生ずる課題を検討し、大学側と協議していく方針です。

新人教員歓迎会を開催しました

例年恒例となりましたユニオン主催の新人教員歓迎会が、7月8日18:00～、千葉大学生協フードコート4にて開催されました。

徳久剛史学長をはじめ、約30名の参加があり、盛会となりました。学長からは、現在進められている年俸制や新教養学部の設立に対する抱負、また、そうした状況における新人教員に対する期待についてお話いただきました。

また、文学部行動科学科の小谷真吾先生からは、パプアニューギニアにおけるフィールドワークに関する講演がありました。大学のキャンパスで教育・研究に従事する私たちには経験できない興味深いお話でした。